

# 2

## 防犯パトロールの進め方

防犯パトロールを進めるに当たっては、まず自治会やPTAなどの地域に居住する方に活動の趣旨や目的を説明し、有志を募ります。参加者の規模に応じて班を編成し、リーダーを決めます。その際、単独でパトロールすることのないように、余裕あるメンバーの数で班を編成することが大切です。班の数に応じて、パトロールの経路や方法、頻度などを決め、実施計画を策定します。その際、警察署の生活安全課や地域の学校などとも連携を取り合って計画を進めます。公民館や地域の学校を防犯パトロール活動の拠点として確保することも必要です。

パトロールに持参する物は、メモ帳、日誌、反射テープ、のぼり、タスキや腕章、懐中電灯、赤色灯、防犯ブザーやホイッスル、デジタルカメラ、携帯電話などです。これらのうち、タスキや腕章などは警察署や防犯協会から貸与されるかもしれませんので事前に相談しておきます。反射テープはパトロール中に交通事故に遭わないための装備です。派手な色のジャンパーや帽子など目立つ服装でパトロールすることも犯罪者にパトロールの存在を知らせ、防犯につながる有効な手段です。

### パトロールの必需品の例



タスキ・腕章

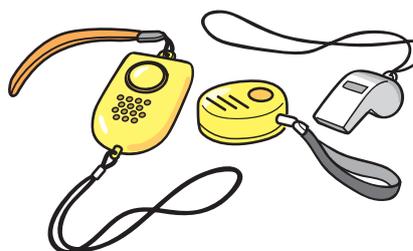
懐中電灯・赤色灯



メモ帳・日誌・  
デジタルカメラ



携帯電話



防犯ブザー・  
ホイッスル

無理のない継続的な活動を！

- 規準表 <41a> 自主防犯活動に対する適切な指導・助言を行うことができる。
- <41b> 防犯パトロールを企画・立案し、防犯の実践に取り組むことができる。
- ねらい  ①防犯パトロール（「子ども見守り隊」など）の目的や効果、留意点について説明できる。
- ③パトロール中に事件が発生した場合の適切な対処方法を説明できる。
- ④防犯ボランティアのジャンパーや腕章などを身につけることの長所・短所を説明できる。
- ⑤防犯ボランティアのジャンパーや腕章などの道具を適切に管理できる。



## パトロールの留意点

パトロールは徒歩または自転車でいきますが、ただ漫然と歩くのではなく、次の点に注意しながらパトロールします。

- ①通学路に異常がないか。
- ②防犯灯の整備が必要な場所の有無。
- ③不良少年のたまり場になってないか。
- ④公園や遊び場に異常がないか。
- ⑤留守宅やその周辺に不審者や不審な車がないか。
- ⑥廃屋、空き家に異常がないか。
- ⑦ゴミの不法投棄や落書きがないか。
- ⑧河川や見通しの悪い交差点など危険な箇所はないか。



また、パトロールの途中では積極的に挨拶や声かけを行います。防犯パトロールは未然に犯罪を防ぐのが目的ですので、万一、犯罪の場面に遭遇した場合は無理をせず、すぐに警察に通報します。

パトロールが終われば日誌にその様子を記載し、情報交換を行います。また、活動の様子を地域に広報し、必要に応じて警察や学校へ情報の提供を行います。

 **ビデオ教材**（ビデオ→ 防犯パトロールの進め方）

※ビデオの活動を参考にパトロールのポイントについてまとめてみましょう。

-----

-----

-----

### ■つかんでおこう！

警察署 Web サイト検索システムなどを利用し、防犯パトロールの事例を調べてみましょう。

<http://www.kodomo-bouhan.jp/G4/>

## Column

### パトロールグッズの管理に注意！！

地域で活動が根付き、ボランティア団体への信頼が増すほど団体名の入ったジャンパー、腕章等が悪用されたときのリスクは高くなります。定期的に個数の把握を行い、しっかりと管理をしましょう。